

業者から未利用材購入 23年稼働、津別の木質バイオセンター

家庭の庭木も買い取り



軽トラックで木々をセンターに搬入するイメージ写真
(津別町提供)

【津別】町が2023年春に町運営で稼働予定の「木質バイオマスセンター」は森林に放置された林地未利用材などを業者から購入しチップに加工するが、もう一つの役割として、処分に困る庭木などを町民らから買い取る「つべつウッドロスマルシェ」をセンター稼働時にスタートさせる。今月中旬には町民向けの勉強会が開かれるなど、森林資源を無駄なく有効活用する機運を町内で高めていく。

「ウッドロス」は林地未利用材を指す言葉で、木々を買い取る仕組みのイメージを町フランス語で「市場」の意味。民に広く伝えることを考えた。買いつけた木々は、家庭用ストーブやキャンプ用のまき、農産物などのチップへの加工を予定する。

資源活用「マルシェ」の機運高める

マルシェでは、山林所有者の林地未利用材、畑や家庭の支障木や剪定した庭木の枝などを、処分に困っていたものを買取る。町はすべての樹種を受け入れる考えで、現在、樹種や質、重量などに見合った買い取り価格を考えている。センターの敷地に木々の置き場を用意し、決まった日時に軽トラックなどで自分で搬入してもらう。持ち込む人が事前に書き込む記録表も作成中。氏名や連絡先、木々の搬出場所や日時を記入してもらう。

マルシェの構想を広く知って理解を深めてもらおうと、11月17日に町森林バイオマス利用推進協議会が町役場で勉強会を開き、町民ら約30人が参加した。

今後もマルシェの周知に向け勉強会を開く予定で、町再生エネ推進係は「マルシェに木々を持ち込むことで、わずかながらの収入になります。町民とマルシェの仕組みをつくっていききたい」と話す。

問い合わせは推進係 ☎0152・77・8387へ。